



大学図書館での学習支援

—限られたスタッフ・予算・時間の中での創り出し方—

徳島大学附属図書館

四国大学附属図書館

聖カタリナ大学附属図書館

亀岡由佳

山本哲也

玉岡兼治



本プログラムの構成

1. 問題点の洗い出し・共有
2. 大学図書館の学習支援の例
3. 実践プラン作成
4. 作成プランの発表
5. 本時のまとめ

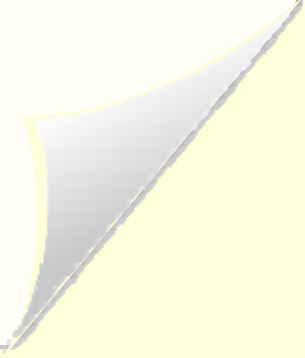


本プログラムの到達目標

- 1. 自校における大学図書館の学習支援について、そのニーズを説明することができる。
- 2. 大学図書館の学習支援の方策や先行事例について説明できる。
- 3. ニーズにあった学習支援のプランを設計することができる。



講師の紹介・資料の確認





1-1. 問題点の洗い出し・共有

学習支援実施上の問題点を出し合う。

- (1) 実施上の問題点や、実施上での悩みをたくさん挙げ、付箋1枚にひとつ書いていってください。**(2分間)**

- (2) 個人で出た意見についてグルーピングを行い、問題点や悩みをまとめ、共有してください。**(5分間)**



1-2. 問題点の洗い出し・共有

自校での問題点や悩みを全員で共有する。

- 各グループで出た意見をそれぞれ発表してください。



2. 大学図書館の学習支援の例

事例発表

(1) 徳島大学附属図書館の実践例

(2) 四国大学附属図書館の実践例

(3) 聖カタリナ大学附属図書館の実践例



3-1. プランをつくるにあたって

- 学習支援を考えるにあたって(その1)

自大学の学生の学習状況や特徴を

どこまで把握していますか？

図書を探すのにどれくらい時間がかかるのか
どういう場所でレポートを作成しているのか
授業の空き時間や授業後はどうしているのか
講習会に来る学生層の人数を想定しているのか
情報リテラシー能力のどこが不足しているのか
レポート作成・卒論の書き方だけの支援でいいのか



3-2. プランを作るにあたって

- 学習支援を考えるにあたって(その2)

大学図書館として

大学予算の削減→図書館予算の削減

退職職員の補充はない → 慢性的人手不足状態

外部委託、もしくは少人数の職員で全業務をカバー

あれもこれもすることは非常に難しい。

図書館業務の中の何を充実させるのか。

自館の方向性や学習支援の方法を考える契機にする。

3-3. プランを作るにあたって

- 学習支援を考えるにあたって(その3)

学習支援として、自大学ではどのようなことを、どう行うのか

1. 大学全体の中で学習支援は？ 図書館は？ どのような位置づけになっているか俯瞰してみる。
2. 教員組織や学内他部署、外部との連携については？

人手不足だから、それを補うために連携、というのではなくて、大学の教育目標に対して、学生の現状や特徴を踏まえてそれぞれのセクションができることを持ち寄って話をする。

担当者同士が学習支援についての課題・方向性の共有を行う



4-1. プランを作ってみよう！

共有された問題点をもとに実際のプランを作成する。(40分間)

- イベントとしてのプラン
- 授業科目と連携したプラン
- 利用者教育としてのプラン



4-2. プランを作ってみよう！

プランを作るにあたって

- (1) 前提となる学生の特徴や問題点、対象とする学生の範囲については、各グループで設定してください。
- (2) プランは学生のどのような能力の育成をはかる目的で立案したかを、どこかに明示してください。
 - (例) プレゼンテーション能力を高める。
文献を探すための基礎的な事項を知る。
未知の図書と出会うことで視野を広げる。 等



4-3. こんなプランを考えてみました

できあがったプランを共有しましょう！



5-1. 本時のまとめ

- 学習支援のプラン作成にあたっては、自大学の学生の学習上での特徴や学習環境について、担当者間での把握・状態の共有を行うことから。

学生へアンケート（学生の傾向が把握できる）

学生へインタビュー（一番利用のない学部学科の学生に）

教員・学内他部署との情報交換（FD・SDとの連携も）

学生がどういう点で困っているか
どこでつまずきやすいか
さらに伸ばせば良い点はどこか



5-2. 本時のまとめ

学生に参加を促すための仕掛けづくりが必要

- 授業との連携---授業で図書館にある図書や資料の利用を指示してもらう。
---レポート作成について
授業中にアウトラインを説明
サポートディスクの紹介。
- イベントの場合は定期的に行われ、学生に図書館が面白いことをしている、という意識づけを。

5-2. 本時のまとめ

自大学の学生にはどのような特徴があるか。学習環境はどうなのか。

大学の教育目標
カリキュラム・ポリシー
ディプロマ・ポリシー

大学としてどのような学生を育成するのか
そのための学習支援としてすべきこと・できることは何か

図書館として、このような学生を育成したい
(図書館側が教員組織・大学他部署に働きかける)

学習支援プランの作成



参考資料1

- 学習支援は大学内のどこでどのように行われているのか ―お茶大のケースから図書館の可能性を探る（発表資料）平成26年2月 お茶の水女子大学 森いづみ
- 図書館学習支援プロジェクト 早大職員のNext125 から 2011年度開催記録報告 多田智子ほか報告による
- 金沢大学附属図書館における学習支援の取り組み（平成26年度）（発表資料）金沢大学教育開発・支援センター 久保田進一
- 図書館機能を活用した教育・学習支援（平成26年度「学習教育研究フォーラム」）パネルディスカッション『学生の主体的な学修を支援する』（発表資料）新潟大学附属図書館 長谷川順子
- 大学図書館の学習支援（平成24年度大学図書館職員長期研修 於筑波大学）（発表資料）同志社大学 井上真琴
- 大学図書館における学習支援サービス再考：学習支援を再構築するラーニング・コモンズ（第23回研修会講演録）呑海沙織 埼玉県大学・短期大学図書館協議会会報20号 2-3, 2012
- PBLの学びを最大値にするために ―同志社大学プロジェクト科目の場合に即して― 山田和人 大学時報 349 46-51, 2013



参考資料2

- 博物館実習Ⅲ履修生による企画展示「名所図会の世界」展について ―授業と図書館の連携を模索する― 須藤茂樹 凌霄19 81-98, 2014
- 大学図書館で実施する学習支援の成果と課題 ―Study Support Space の実践から― 吉田博 佐々木奈三江 亀岡由佳 枝川恵理 斉藤くるみ 大学教育研究ジャーナル 11 26-37, 2014
- 関西大学における教育補助者を活用した活動、授業実践の動向分析 ―学部生・院生の教育力活用制度の全学展開に向けて― 岩崎千晶 田中俊也 竹中喜一 川瀬友太 関西大学高等教育研究3 53-67, 2012
- ビブリオバトルを大学図書館が推進する意義 2013年度 広島県大学図書館協議会第1回 研修会（発表資料） 吉植庄栄
- 筑波大学ラーニング・アドバイザーの活動 村尾真由子（ほか） 大学図書館研究101 108-118, 2014
- 学習支援としての情報リテラシー教育:これまでとこれから 茂出木理子 大学図書館研究 100 53-64, 2014
- <共読ライブラリー>が創る「人」「本」「学び」の未来 ～帝京大学メディアライブラリーセンターにおける学修支援～ 中嶋康 辺見純子 大学図書館研究97 1-12, 2013



参考資料3

- 神戸学院大学図書館における学生読書推進のための取り組みについて 小畑佳弘 藤掛久美子 大学図書館研究97 13-20, 2013
- 利用者教育における教員との協働 ―明治大学図書館の活動報告― 久松薫子 西脇亜由子 大学図書館研究96 10-15, 2012
- 一橋大学における図書館と教員の協働・図書館職員と専門助手の協働 杉岳志 大学図書館研究96 16-22, 2012
- 大学1年生の文献情報リテラシー能力と図書館による情報リテラシー授業の評価 庄ゆかり 長登康 (ほか) 大学図書館研究92 27-35, 2011
- 利用者から学ぶ: 個性的で多様な図書館サービスに向けて 平成21年度国立大学図書館協会シンポジウム 大学図書館研究92 69-83, 2011
- 一年次教育における図書館の役割 ―図書館が参加・実施する情報リテラシー教育を考える― 慈道佐代子 大学図書館研究82 12-21, 2008
- 図書館利用教育・情報リテラシー教育をめぐる動向: 1999～2001 安藤友張 情報の科学と技術52(5) 289-295, 2002
- 大学図書館における利用者教育の基礎的考察 ―概念および意義を中心として― 仲村拓真 青山学院大学教育学会紀要「教育研究」59 79-94, 2015



参考資料4

- 図書館利用教育の重要性と実施ポイント ～実践事例から考察する 木村修一 短期大学図書館研究30 59-63, 2010
- 特色GP「『教育の場』としての図書館の積極的活用」の取り組み 柴尾晋 短期大学図書館研究28 17-22, 2008
- 情報リテラシー教育における図書館員の役割 NII研修プログラムの背景にあるもの 野末俊比古 短期大学図書館研究 28 23-32, 2008
- 情報リテラシー教育の実践事例と指導上の留意点(情報検索指導を主に) 毛利和弘 短期大学図書館研究 28 37-43, 2008
- 学生の自ら学ぶ力を育成する大学図書館の取り組み 玉岡兼治 私立大学図書館協会報 144 2015 (掲載予定)



ありがとうございました

質問・ご意見等は、是非こちらにお寄せください。

聖カタリナ大学 附属図書館 玉岡 兼治

E-mail : lib@catherine.ac.jp



SPODフォーラム2015

大学図書館での学修支援 -限られたスタッフ・予算・時間の中での創り出し方-

徳島大学附属図書館の 「あるもので何とか」始める学修支援

平成27年8月27日（木）

徳島大学附属図書館 亀岡 由佳

目次

- はじめに
 - 徳島大学の基本情報
 - 徳島大学附属図書館の施設
- 徳島大学附属図書館における学修支援の取り組み
 - 授業連携（教員協働）
 - 直接的学修支援：Study Support Space(SSS)
 - 間接的学修支援：学習イベントの開催
- 徳島大学附属図書館での学生協働・教員協働の展開
- 学生協働・教員協働の課題と利点
 - 協働の課題
 - 協働による学修支援の利点

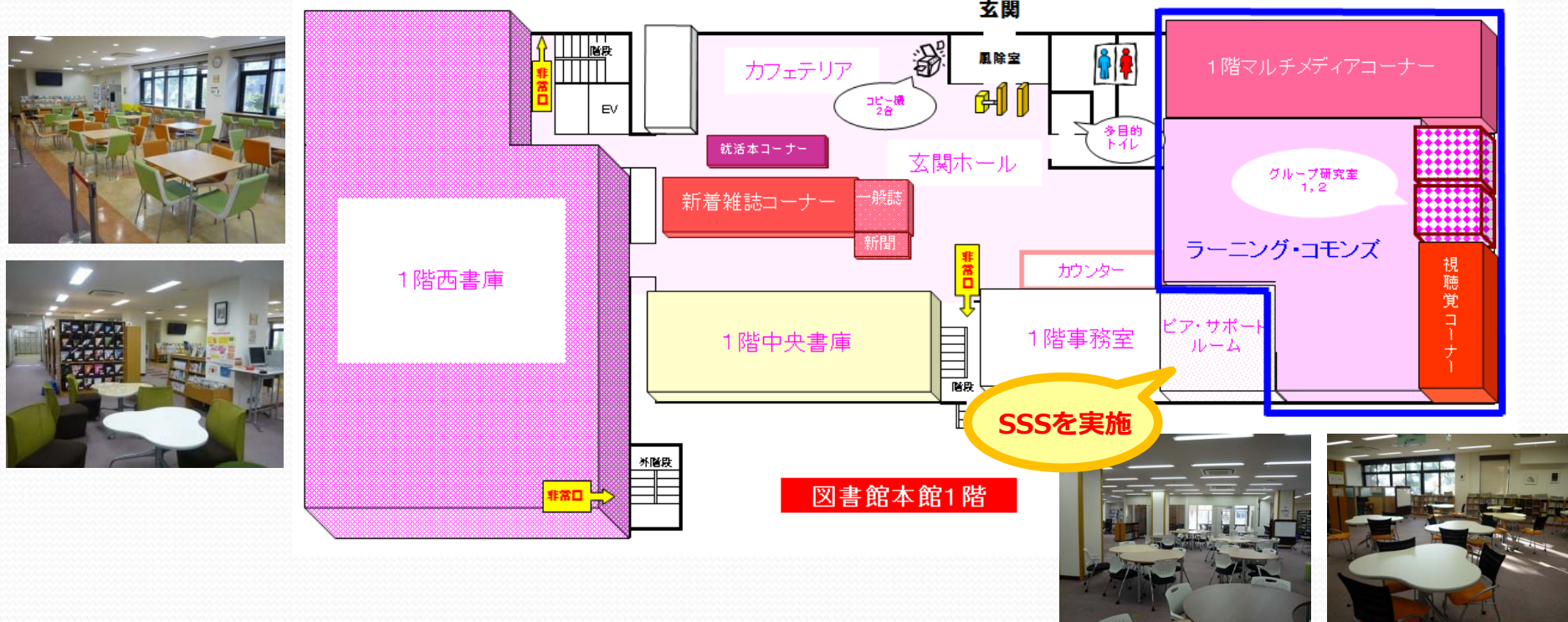


はじめに

徳島大学の基本情報

- キャンパスは2つ
 - 常三島地区と蔵本地区。それぞれに図書館がある
- 学部は5つ
 - 総合科学部, 工学部 (常三島キャンパス)
 - 医学部, 歯学部, 薬学部 (蔵本キャンパス)
- 学生は約7,600名, 教員は約960名
- 図書館職員
 - 本館 定員 8名, 有期雇用 13名
 - 分館 定員 5名, 有期雇用 5名

徳島大学附属図書館の施設



2009年 耐震改修によりリニューアル・オープン

1階をコミュニケーション可能なゾーン、2階をサイレント・ゾーンとゾーニング

2012年1月 1階のレイアウトを変更し、1階全体を「ラーニング・コモンズ」として運用開始

2014年12月 1階閲覧室を整備し、「ラーニング・コモンズ」に名称変更



徳島大学附属図書館における 学修支援の取り組み

徳島大学附属図書館の学修支援

- 授業連携（教員協働）

講習会

授業参画・・・全学共通教育科目「読書コミュニケーションへのいざない」

- 直接的学修支援

Study Support Space(SSS)・・・学習相談窓口

- 間接的学修支援

学習イベントの開催

授業連携（教員協働）

- 講習会

- 授業の1コマとして講習会を開催
- ゼミ単位で学生の専門分野や要望に合わせて開催



- 全学共通教育科目「読書コミュニケーションへのいざない」への参画⁽¹⁾

- 複数の異分野の教員と図書館職員が参加して、それぞれの立場から読書にまつわる講義を行うことが特徴

直接的学修支援



- Study Support Space(SSS) (2) ~ (3) . . . 学習相談窓口
 - 教員・大学院生等が、図書館1階ピア・サポートルームで常設の学習支援を行う企画
 - 学生の学習に関する相談に対し、アドバイザーの教員・大学院生・学部学生が対応
 - 2013年4月12日よりオープン
 - 場所は、図書館で空き部屋となった事務室を流用
 - 学びサポート企画部 (4) による運営
(徳島大学サポート系サークル)



間接的学修支援

- 学習イベントの開催

- レポートの書き方講座
- 先生のコバナシ ～実は私こんなことをしているんです～
- 全力卒論発表会
- ビブリオバトル → 阿波ビブリオバトルサポーター (徳島大学サポート系サークル)
- POPコンテスト → ライブラリー・ワークショップ (徳島大学同好会)
- 履修相談会
- テーマ展示・展示会

学びサポート企画部
(徳島大学サポート系サークル)

ライブラリー・ワークショップ,
その他学生・教員の持ち込み企画など

- 図書館案内ツアー

- 月刊新聞 (Love Library Letter) の作成

ライブラリー・ワークショップ



図書館で活動する主な学生団体

- 学びサポート企画部

- 大学生の学習支援を行うことを目的に、「繋ぎCreate」※の一部門「SSS企画チーム」として2013.3発足。その後、独立して「学びサポート企画部」と改称（→現在は、徳島大学サポート系サークル）

※ 繋ぎcreate：徳島大学内でピア・サポート活動を行う学生・教職員によって構成された自主的なチーム

- 阿波ビブリオバトルサポーター（5）

- 徳島でのビブリオバトル普及を目指して、徳大生・教職員を中心に無償の活動グループとして2013.3発足（→現在は、徳島大学サポート系サークル）

- ライブラリー・ワークショップ

- 図書館で策定した設置申し合わせにより、2010.11に無償の活動グループとして発足（→現在は、徳島大学同好会）
- 主に読書推進を中心に活動



徳島大学附属図書館での 学生協働・教員協働の展開

きっかけ …「ラーニング・コモンズ」の実質化のために

2009年に本館を改修 …コンセプト「ラーニング・コモンズ」

しかし、図書館内に「ラーニング・コモンズ」という場所なし

そこで、まず取り組んだことは…

ラーニング・コモンズが果たすべき
学習支援機能やコンテンツの充実を図ること



環境や体制の整備，実績を作ることから始める

どのようにして 学習支援機能の充実を図るのか？

- 施設面ではラーニング・コモンズの条件を満たしている
- しかし、人的支援や学内の学習支援機関との連携は不充分



- 学習サポートスタッフ → 人件費確保できず
- 学習支援室との連携 → 打診したが不調

図書館だけで人的学習支援を行うことは困難



学生協働・教員協働へ

学生協働・教員協働に向けて（１）

- 先生に声をかける

- 普段図書館をよく利用されている先生に企画を持ちかける
- 図書館がやりたいことに近い授業をしている先生を見つけて、企画を持ちかける
- 先生の研究テーマや課外活動に関する企画を持ちかける

- 図書館の外に出る

- F D・S Dセミナーに参加

- 学生・先生の持ち込み企画の積極的な受入れ

- 広報

- 先生にチラシを送付 (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/news/news15/pdf/2015043001.pdf>)
- 図書館報メールマガジン「すだち」
- マスコミへの露出（新聞・雑誌・テレビに報道依頼）



学生協働・教員協働に向けて（２）

大学の
動向を確認

図書館で
何ができるか

実績を作る

予算の獲得

業務として

- 「徳島大学機能強化プラン」⁽⁶⁾に基づく教育機能強化
- 平成26年度「大学教育再生加速プログラム」⁽⁷⁾
テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）に採択

学内でアクティブ・ラーニングの必要性が高まっている

- 図書館のラーニング・コモンズが役に立つはず

図書館の学修支援の充実 → 徳大が目指すアクティブラーニングの推進

- 予算はないので、有志を募り、活動を始め、実績を作る（学生協働・教員協働で）
- 今までの実績が認められ、予算獲得につながる
- 学修支援活動の経費が確保され、業務として認められる



学生協働・教員協働の 課題と利点

協働の課題

- 学生との流れる時間の違い！
- 学生の成長か，企画推進優先か（企画優先なら有償化）
- どこまで関わるか
- どうやって学生を集めるか，教員に声をかけていくか
- 成果をどう評価するか
- 広報
- 通常業務との兼ね合い（どこまでが業務か？）
- 図書館側の人材不足
- 図書館の学修支援方針が変更する可能性は？

協働による学修支援の利点

協働を通して、
いろんな学生・教員と
図書館がつながる

学生

- 自分たちが必要性や興味を感じるサービス・イベントを企画・立案できる
- 様々な立場の人と関わる事ができる人生経験の場に
- 協働活動を通して責任感、自主・主体性、協調性などが向上

学生が教員と
図書館職員の
『懸け橋』になる

教員

- 学生の様子や他の授業の様子がわかり、授業改善につながる
- 新しいタイプの授業ができる可能性（図書館職員との協働・連携授業）

図書館

- 図書館の施設・サービスについて学生や教員にアピールできる
- 学生や先生の周辺情報を得られる（サービス展開のヒントに）

それぞれが特性を活かし、補い合うことで、より大きな効果が得られる

だから . . .



できない理由を挙げる前に、
今あるもので「できること」を考えて
とりあえずやってみる！

参考文献

- (1) 依岡隆児[ほか] 「第2回読書懇談会「徳島における若者読書文化の形成」の報告」徳島大学総合科学部・地域交流プロジェクト, 2015
- (2) 吉田博ほか「大学図書館で実施する学習支援の成果と課題ーStudy Support Spaceの実践からー」大学教育研究ジャーナル, 11, 26-37, 2013
- (3) 亀岡由佳ほか「学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の取り組み」第21回大学教育研究フォーラム発表資料, <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/repository/metadata/109410> (参照日 : 2015.7.29)
- (4) 学びサポート企画部HP <http://www.tokushima-u.ac.jp/cue/sca/team/sss/> (参照日 : 2015.7.29)
- (5) 阿波ビブリオバトルサポーターHP <http://www.tokushima-u.ac.jp/cue/sca/team/biblio/activity.html> (参照日 : 2015.7.29)
- (6) 徳島大学機能強化プラン <http://www.tokushima-u.ac.jp/files/00167932/kinoukyoukaplan2510.pdf> (参照日 : 2015. 7.21)
- (7) 大学教育再生加速プログラム <http://www.jsps.go.jp/j-ap/index.html> (参照日 : 2015. 7.21)



大学図書館での 学習支援

限られたスタッフ・予算・時間の中での 創り出し方



教員と連携？すること

2013年度から、四国大学附属図書館が所蔵する約2万点の古文書類を「博物館実習」科目に活用。受講学生は資料調査・解説執筆・キャプション作成を行う共同作業を学習し、その成果を図書館1階の展示コーナーで博物館的展示で発表しています。

2013年度「名所図会の世界」

2014年度「広告宣伝いろいろ -引札・買物案内・新聞などなど-」

2015年度「軍記物の世界(仮題)」

△対象は

文学部日本文学科 &
書道文化学科4年学生
約30人。

(古文書解読の基礎的な
理解力は習得済..)

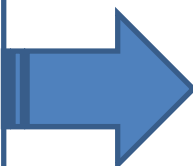


それで、 どのような状況下で実施しているか？



風向き・・・既に言い尽くされているが・・・

- ・予算削減
- ・職員の非専任化・外部委託化
- ・様々なタイプの学生の入学
- ・施設の老朽化
- ・業務内容の増加・高度高速化
- ・人材養成・研修の課題



- ・〇〇がない！
- ・〇〇がない！
- ・〇がない！

三 無 斎

▲工夫は可能か？



2013年度から閲覧業務を外部委託に！

人材育成には時間を要したが、課長からのトップダウンが可能となる

「いろんなこと」ができる・・・



明かりは見たのか？

トピックス

- ・学生が展示をすることで館員(私)展示回数が減少
- ・展示関連図書を含めて貸出利用冊数が増加
- ・2014年夏の耐震補強工事に合わせ、空調機と照明器具を一新。館内に設置の鉄枠を隠すため「格子」と壁が出現 → 個席増
- ・「KJ」の推進。KJとは当館雑誌書誌番号：キラー Journalの意味
- ・図書館SYSTEMの開発等は愛知学院大学にたゞしEDSだけは逆になって大往生
- ・選書方法に「インサイト」の手法



今後の予定

お問い合わせ先：
四国大学附属図書館学術情報課
山本哲也<tosho@shikoku-u.ac.jp>

学生の自ら学ぶ力を育成する 大学図書館の取り組み



聖カタリナ大学附属図書館 玉岡兼治

1. 目的 本学学生が情報媒体の特徴を知ったうえで、 自らの課題解決を行うためのスキルを身につけてもらう

• なぜスキルが必要なのか？

聖カタリナ大学 学訓から

(高邁)--- **個人と社会を取り巻く諸困難に立ち向かって**心身ともにたくましく生きる精神をもつこと。

- 中教審答申「学士教育の構築に向けて」
～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～

これまでに獲得した知識・技能・態度等を**総合的に活用し**、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、**その課題を解決する能力が必要。**

• 本学に入学してくる学生の特徴

(1) さまざまな情報媒体からの情報収集方法がありながら、資料それぞれについての理解がないため、一部メディアだけしか見ていない、という偏りがある。

(2) ウェブ上の検索エンジンの利用についても、一部の商用エンジンに偏っており、さまざまなデータベースやコンテンツについて十分な理解があるとはいえない。

こうした資料活用能力のスキルを実践の中で身につけることができるのは、図書館での資料活用から。

大学図書館の整備について 2011年1月
ITを活用して自らの問題解決につなげていくことができるかどうか。

2. 実施方法の特徴・内容

- 図書、雑誌、ウェブ上の検索エンジン、データベース等のそれぞれの特徴を知り、**そうした資料を実生活上で活用できるようにする。**
- 資料活用の方法は1年生から3年生まで、それぞれ入門編・基礎編・応用編と**3年間継続して行い、学ぶ内容についても次第に深化発展させていくようにする。**

段階・学習項目	入門編(図書館利用で最低限必要なことを学び、活用できるようにする。)	基礎編(レポート・報告書等を書くのに必要な知識を知り、活用できるようにする。)	応用編(今まで学んできたことを応用することができる。)
図書館利用方法	図書館の入退館のしかた		
OPAC	OPACの見方(図書)	OPACの見方(雑誌・紀要)	
データベース検索	OPACからどうやって本を探すのか。 コンピュータ教室(図書館OPACのアクセス方法を学ぶ) 来館→OPAC検索→書架検索 課題プリント(書誌情報)記入、図書借出	本学で導入しているデータベースについて データベースでの検索の方法 and検索・or検索について Google, yahooなどの検索エンジンの特徴、サイトを引用するときの注意点について	横断検索エンジンについて 学術リポジトリについて
図書について	図書の借り方・返し方	本のかたち(版型について)	
資料の種類・特徴	参考図書について 授業用参考図書について コピーのとり方(著作権とともに)	いつ、どの媒体の資料を調べたらよいか。 新聞・白書・報告書について 雑誌記事・論文記事の探し方	ILLについて 複写依頼 ILLについて 現物貸借

3. 実施スケジュール

入門編・基礎編は基礎演習の授業の中で実施・開催、応用編は各演習授業時間内で実施した。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入門編	基礎演習担当教員との打ち合わせ(実施方法・内容について)			入門編1 I (基礎演習授業時間内)											
基礎編		教授会で実施案の説明・協力依頼		基礎編前半(4月末～7月実施) 入門編の復習(本を探してみよう！)							基礎編後半(11月～1月実施) 資料それぞれについて見る時期と各特徴を学ぶ。3年生次応用編へ橋渡し。				
応用編		教授会で実施案の説明・協力依頼		応用編(4月～7月の各演習授業時間内)					応用編(9月～12月の各演習授業時間内)						

5. 評価

- ・ **入門編** --- 与えられた課題について、自分で調べた課題のワークシートを提出。
- ・ **基礎編** --- 1時間の授業の中で、各自課題実習を行う。授業終了後ワークシートを記入提出する。担当教員はそれにより1時間の評価を行う。
- ・ **応用編** --- 同上。

入門編実施状況(その1)

まず、コンピュータ教室で本のデータ・OPACの見方を学ぶ。



入門編実施状況(その2)

学生への説明は、教員と図書館員が相互に補いあいながら行った。



入門編実施状況(その3)

各自の課題とワークシートを渡され、図書館に移動。OPACで、自分の探す本を検索している。



入門編実施状況(その4)

OPACで、自分の探す本を見つけた後、実際に書架に行って本を探す。



入門編実施状況(その5)

書架で見つけた図書の書誌情報をワークシートに記入する。



入門編実施状況(その6)

探してきた実際の図書とワークシートを担当教員に見せ、ワークシートを提出、図書は一度貸出を行い、次週に返却して(レポートが出る)授業が終了する。



応用編実施状況

各ゼミで事前に担当教員と打ち合わせ、ひとり一人の学生の研究方向に合った説明・資料の探し方の実習を行った。学生の気づきや反応を大切にしながら実施した。



6. これからの課題

- 定着度について、どういう観点を評価項目とするべきか。
- 到達度を判断するための基準作りについて。

ご清聴ありがとうございました。

lib@catherine.ac.jp